

TCCU Quarterly

—都市大だより—

2018.OCT.

No.209

平成30年10月31日発行

東京都市大学 企画・広報室

東京都世田谷区玉堤1-28-1 TEL.03-5707-0104 <http://www.tcu.ac.jp>

特集

創立90周年記念 連載企画：都市大ヒストリー

第1回 ドラマチックなスタート

CONTENTS

- 02 特集 創立90周年記念連載企画：都市大ヒストリー
- 04 第2回 夢祭
- 05 RAC開設
- 06 学生と大学との懇談会
- 07 体育祭2018
- 08 第22回 東京都市大学横浜祭
- 09 人事発令
- 10 平成30年度 五島育英基金奨学金授与式
- 11 平成30年度 競争的研究資金一覧
- 12 平成30年度 文部科学省科学研究費助成事業交付決定一覧
- 16 平成31年度 入学試験概要
- 20 経理公開
- 27 平成30年度 学生団体／課外活動
- 32 第17回 科学体験教室
- 33 都市大エコ1チャレンジカップ 2018
- 34 NEWSラウンジ／夢キャン通信
- 36 Information
(東京都市大学世田谷祭・等々力祭／
オープンキャンパス 2018／
東京都市大YCチャリティーフェス)



自 自 公
治 由 正

第1回 ドラマチックなスタート

学生の熱意が 創り上げた学び舎

本学は、2019年に創立90周年を迎えます。
これを機に改めて歴史をひもときながら、
本学の独自性に富んだ教育や研究についてご紹介します。
第1回は、きわめて稀な創立時のエピソードにスポットを当てます。



Tsunetada Oikawa



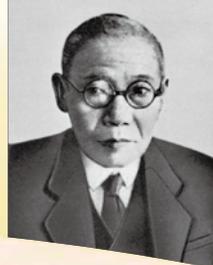
及川 恒忠
(1891-1956)
1929年、放校処分となった東京高等工商学校の学生らは、当時慶應義塾大学法学部の教授をしていた及川に「安心して勉学できる学校を作ってほしい」と要請。及川は、親友の西村有作に相談し、学校の発足を決めた。

Yusaku Nishimura



西村 有作
(1890-1959)
1929年、昭和工船漁業株式会社経営などにより資産家であった西村は、同じ慶應出身の及川恒忠に学校設立資金の出資要請を受けて承諾。初代理事長となる。

Takemasa Tezuka



手塚 猛昌
(1853-1932)
東洋印刷株式会社などを営んでいた手塚は西村有作と同様に及川恒忠から学校設立資金の出資要請を受けてこれに応じた。また、日本初の時刻表「汽車汽船旅行案内」を発行した「時刻表の父」としても有名で、財界人としても活躍した。

【創業者】

本学は、1929年に創立された「武蔵高等工科学校（後の武蔵工業大学）」と、1939年に開校した「東横商業女学校（後の東横学園女子短期大学）」が、2009年に発展的統合を果たしたことによりスタートし、現在では、6学部18学科を擁する総合大学となりました。

“工業教育の理想”を求める学生たちとともに、
本学の発展に尽くした人々

本学の源流の一つである「武蔵高等工科学校」の歴史は、今からさかのぼること約90年前の1929年に、十数名の若者たちが、東京高等工商学校（現在の芝浦工業大学）を飛び出したことに始まります。舞台は、関東大震災から6年を経たものの、完全復興への道は半ばにすぎず、未だ社会も経済も混乱期にある東京府大森（当時）です。

当時、1927年の開校から2年ばかりであった東京高等工商学校の教育内容に、満たされぬものを感じていた学生たちは「実験や実習で腕を磨きたい」と、授業の充実を求めて学校に改善を要求します。

しかし学校との話し合いは不調に終わり、結果として学生たちは放校処分を受けてしまいました。それでも、勉学への思いを断ちきれない学生たちは、3人のリーダー（宮尾薫、柳田次郎、佐藤康実）を中心に再就学のために奔走します。

この時、彼らが頼ったのが、同校の非常勤講師でもあり、学生たちの信望厚かった慶應義塾大学法学部教授の及川恒忠でした。理想家肌で学生思いの及川は、学生たちの熱い思いに共鳴し、親友で昭和工船漁業株式会社 代表取締役の西村有作に新学校設立の資金協力を求めました。その後、両名は、東京府知事（当時）の認可で学校をスタートさせ、時期を見て専門学校に昇格させる方針をとります。この時、日本で初めての時刻表「汽車汽船旅行案内」を発行し「時刻表の父」としても有名な手塚猛昌も賛同し、資金を提供しています。

そして、及川・西村・手塚の3名は、現在の東急電鉄池上線 大崎広小路駅にほど近い、旧沖電気株式会社の工場跡地に、1929年9月、東京府の認可を得て「武蔵高等工科学校」を誕生させたのです。

開校主旨

工業に従事せんとする者の為に
須要なる学科を授け有為の技能と堅実なる
国民思想とを涵養せん事をもって目的とす

経済的にわが立国の基礎は樂觀できない状況にある。
天産豊かならず、人口過多なる
わが国が進むべき道は工業的發展の一路あるのみ。
求められつつあるのは、
この方面における有為堅実な人材の出現である・・・



- ① 1929年の創立時、東京府荏原郡大崎町（現在の大崎広小路駅東側）にあった武蔵高等工科学校の仮校舎。
- ② 現在、大崎広小路駅入口脇に設置されている「東京都市大学 発祥の地」記念碑
- ③ 1932年に武蔵高等工科学校は目黒区大岡山に校舎を移転。

- ④ 初期の実験室。実験器具は企業からの協力による品が多かった。
- ⑤ 世田谷キャンパスに設置されている建学の精神「公正・自由・自治」の石碑。
- ⑥ 1942年の尾山台駅と学生たち。
- ⑦ 1939年に学生数の増加により、現在の世田谷区玉堤に移転。

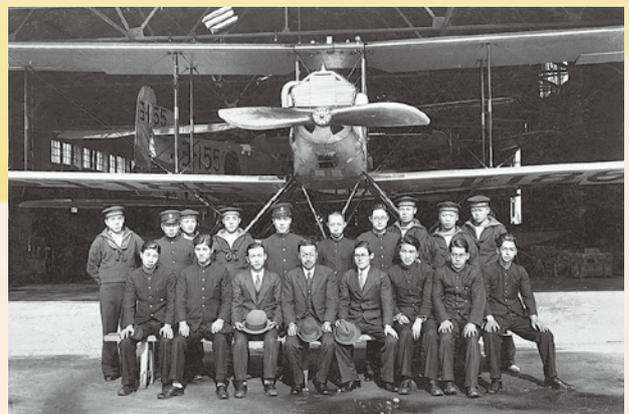
創立時の学び舎は、木造2階建ての工場をそのまま使用したため設備も十分でなく、また、目黒川に近い低地でもあったため、大雨が降るとすぐに浸水してしまうようなところでしたが、学生たちの熱意と志が生み出した「本当の学びを求める」理想の場でした。

その後、1932年には目黒区大岡山へ、1939年には現在の世田谷区玉堤へと移転を果たした本学は、日本政府の工業立国策のもと、多くの優秀な人材を全国から集め、実業界を中心とした社会へ卒業生を輩出し続けることとなります。

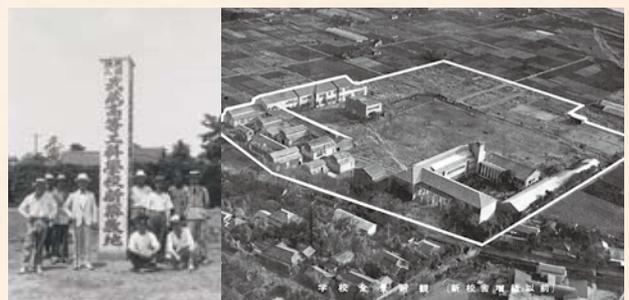
継承し続ける建学の精神「公正・自由・自治」は夢と希望のシンボル

創立時の設置学科は、電気工学科、建築工学科、土木工学科（昼間部221名、夜間部157名）でした。教員はもちろん、学生たちも実験・実習に必要な機械・器具類を集めるために奔走すると同時に、設備の不備を補うため、学外の工場や研究施設を見学しながら、夏期休業には工場実習も励行し、そこで得られた知見を学校に持ち帰って共有したそうです。

創立者の一人である及川によって作られた建学の精神は「公正・自由・自治」。自分たちにとって本当に必要な学びはどうあるべきかを模索した学生たちと、これに応えた人々の思いを具現化したものです。本学は、この優れた精神を継承しながら、新しい時代と社会の要請に応えるため、さらなる進化を続けていきます。



創立当初は外部施設の実習等で、実験設備の不足を補った。



世田谷区玉堤移転当時の様子。周囲は田園風景が広がっていた。

次号No.210(2018年12月発行)では、「都市大グループの祖 五島慶太翁と東横学園」を紹介します。

TCU Quarterly

—都市大だより—

2018.DEC.

No.210

平成30年12月21日発行

東京都市大学 企画・広報室

東京都世田谷区玉堤1-28-1 TEL.03-5707-0104 <http://www.tcu.ac.jp>

CONTENTS

- 02 特集1 創立90周年記念 連載企画:
第2回 都市大ヒストリー
- 04 特集2 平成30年度 東京都市大学
優秀研究賞・優秀教育賞・ベストレクチャー賞
- 06 特集3 東京都市大学 第2回 APシンポジウム
- 08 学生と大学との懇談会
- 10 第89回 東京都市大学 世田谷祭
第10回 東京都市大学 等々力祭
- 12 永年勤続者表彰
- 13 大学と保護者との連絡会
- 14 第7回 FD・SDワークショップ
- 15 学生選書ツアー 2018
- 16 研究紹介
- 17 PERSON/BOOKS
- 18 NEWSラウンジ/夢キャン通信
- 20 Information
(2019年度一般入試日程/特待生制度・
留学プログラム奨学生制度)

特集

創立90周年記念 連載企画:都市大ヒストリー

第2回 都市大グループの祖 五島慶太翁と東横学園



第2回

都市大グループの祖 五島慶太翁と東横学園

都市大グループの 礎を築いた五島慶太翁



創立90周年記念 連載企画の第2回は、都市大グループの祖 五島慶太翁にスポットライトを当てます。

東急グループを創業した実業家として知られる慶太翁は、熱と誠を持った教育者でもありました。東横学園の開校、五島育英会の設立までの軌跡を辿ります。

実業家として華々しい足跡を残した五島慶太翁は、沿線の文教都市化の推進に加え、武蔵工業大学や東横学園などの教育事業においても大きな功績を残しています。

教育者として

社会人の第一歩を踏み出した慶太翁

今から136年前の1882年、長野県小県郡青木村に生まれた慶太翁は、学校(旧制中学)まで片道12kmの山道を雨の日も雪の日も毎日歩きとおすなど、大変な苦学力行をし、それでも人より2年も早く中学校を卒業して、18歳で母校の青木村尋常高等小学校の代用教員となり、社会人としての第一歩を教育者として歩み始めました。教壇に立つ傍ら、上級学校へ進学するための勉強も続け、1902年、官費給費である東京高等師範学校(現在の筑波大学)英語科に進学、卒業後は三重県立四日市商業学校で英語教師を務めます。その後、一念発起して1906年、東京帝国

五島慶太翁 歩み

1882年《生誕》

長野県小県郡青木村に生まれる。



五島慶太翁の生家

1900年《18歳》

松本中学校を卒業し、青木村尋常高等小学校の代用教員となる。

1902年《20歳》

東京高等師範学校入学



前列左から2人目が五島慶太翁

1939年《57歳》

東横商業女学校開校



1940年《58歳》

財団法人東横学園理事長に就任。

東横商業女学校の名誉校長に就任。

熱誠

人の成功と失敗のわかれ目は第一に健康である。次には熱と誠である。体力があつて熱と誠とがあるならば必ず成功する。

大学法科大学（現在の東京大学法学部）に入学。卒業後は、農商務省に入省、その後は、鉄道院を経て実業界に身を転じます。

実業界での大成功と 教育事業への深い関心

退官後、武蔵電気鉄道の常務に就任した慶太翁は、国の繁栄と産業発展のため教育事業の推進にも意欲を燃やします。沿線に東京工業大学や慶應義塾大学、東京学芸大学などの大学を次々と誘致し、東急の主要な沿線を文教都市化させたのです。また、本学の前身である武蔵高等工科学校の目黒区大岡山への校舎移転（1932年）や現在の世田谷区玉堤への移転（1939年）の際には、請われて絶大な支援も行いました。

やがて、私財を投じて自らが理想とする学校をつくりあげること決心し、1939年4月、東横商業女学校（後の東横学園女子短期大学）を開校しました。「時勢は如何なる女子を要求するか」と題した開校式・式辞で慶太翁は、新しい時代にふさわしい、真に



開校当時、東横商業女学校の玄関は、代々木にあった紀州徳川家の玄関を譲り受けて移築した。



慶太翁は真の日本的女性の育成をめざし、理論や講義だけでなく実践的な授業にも力をいれた。



[1・2] 東横学園女子短期大学の校舎 [3] 校舎新築竣工式での慶太翁

有能な日本的女性の育成のためには、「理論や講義でなく、すべて実践によって習得させたいと考えております」と述べ、卒業生が自立し、活動的に生きられるようにと、珠算やタイプライターなど職業的な技能の習得にも力を注ぎました。

五島育英会の設立と時を同じくして 総合大学化構想を公に

1955年、慶太翁は学校法人東横学園と学校法人武蔵工業大学を合併し、学校法人五島育英会を誕生させ、幼稚園から大学までの教育体制を整えます。

その頃、「将来、慶應、早稲田に匹敵し得る総合大学になる日も遠くないと確信している」と慶太翁は公言しています。時に慶太翁73歳。その晩年は人生訓である「熱誠」をもって、教育事業に邁進しました。

武蔵工業大学と東横学園女子短期大学を統合し、東京都市大学が誕生、総合大学としてのスタートを切ったのは、2009年4月1日。慶太翁の逝去から50年後のことですが、そのビジョンは五島育英会を創設した時、すでに慶太翁の頭の中に、思い描かれていたのです。

次号No.211 [2019年3月発行]では、「学の充実 一学部の変遷」を紹介（予定）します。

1906年《24歳》 1911年《29歳》 1912年《30歳》 1913年《31歳》 1920年《38歳》 1922年《40歳》 1924年《42歳》

東京帝国大学入学



法学部政治科
在学の間（前列右）

東京帝国大学を卒業し、
農商務省の嘱託となる。

久米萬千代と結婚。
小林慶太から
五島慶太に改姓。



農商務省嘱託を解かれ
鉄道院勤務となる。



監督局総務課長を最後に、
請われて武蔵電鉄に入り、
次いで目蒲電鉄建設に着手。

鉄道省を退官。
武蔵電気鉄道(株)の
常務取締役就任。

目黒蒲田電鉄(株)
を設立。

武蔵電気鉄道(株)を
東京横浜電鉄(株)に変更し、
専務取締役就任。

1942年《60歳》

東京横浜電鉄(株)が
小田急電鉄(株)、
京浜電鉄(株)と合併し、
東京急行電鉄(株)に商号変更。

1944年《62歳》

運輸通信大臣に就任。



1952年《70歳》

○東京急行電鉄(株)の
取締役会長に就任。

1955年《73歳》

学校法人東横学園と
学校法人武蔵工業大学を合併して
学校法人五島育英会を設立。
理事長に就任。

1956年《74歳》

○東横学園
女子短期大学を開学。
○学校法人亜細亜学園の
理事長に就任。

1959年《77歳》

○逝去(8月14日)。
○生涯の功績に対し、
正三位勲一等に叙せられ
瑞宝章を授与される。

TCU Quarterly

—都市大だより—

2019.MAR.

No.211

平成31年3月19日発行

東京都市大学 企画・広報室

東京都世田谷区玉堤1-28-1 TEL.03-5707-0104 <http://www.tcu.ac.jp>

CONTENTS

- 02 特集 創立90周年記念 連載企画:
第3回 都市大ヒストリー
- 04 平成30年度 卒業生の就職状況
- 06 平成30年度 就職内定先一覧
- 13 平成30年度 進学先一覧
- 14 平成31年度 入試速報
- 22 人事発令
- 23 平成30年度 大学院論文主題
- 24 平成30年度 学生表彰
- 27 平成31年度 学生団体役員
- 28 課外活動
- 32 研究紹介
- 33 PERSON/BOOKS
- 34 NEWSラウンジ/夢キャン通信
- 36 Information
(東京都市大学 横浜祭/科学体験教室
オープンキャンパス/WCV/
東京都市大学 校友会/速報 学部新設・改組)

特集

創立90周年記念 連載企画:都市大ヒストリー

第3回 戦後の学制改革により武蔵工業大学として始動

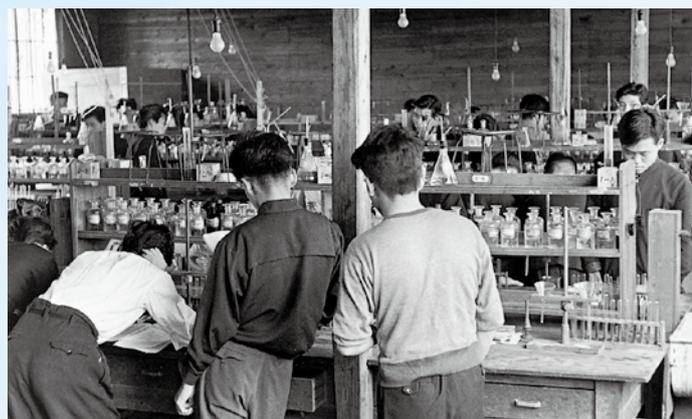


創立90周年記念 連載企画：都市大ヒストリー

第3回 進化する都市大の教育・研究《1》

戦後の学制改革により 武蔵工業大学 として始動

創立90周年記念 連載企画の第3回は、学制改革により武蔵工業大学として新たなスタートをきった本学の1940年代から1970年代の歴史を振り返ります。原子力研究所の開設や水素自動車の開発など、各時代を象徴する教育・研究活動をご紹介します。



1954年頃の化学実験室。



▶1949年

武蔵工業大学としてのスタート

1929年、武蔵高等工科学校として創立、1944年に武蔵工業専門学校と改称した本学は、戦後の学制改革により、1949年2月、大学設置の認可を受け、「武蔵工業大学」として、機械工・電気工・建設工の3学科でスタートしました(2019年3月現在、6学部18学科)。戦災による焼失校舎の再建や、戦後のインフレーションなど、新制大学創設時の財政は厳しい状況が続きましたが、当時の理事長らが私財を投じるとともに、教職員らによる奉仕活動など、献身的な運営努力が続きました。また同窓会組織である「武蔵工業会」(当時)による施設用資材の寄贈などもあり、次第に学生数も増加して、経営は安定し、1966年には大学院工学研究科修士課程を、1968年には同研究科博士課程を開設しました。

また、本学のもう一つの源流であり、五島慶太翁によって1939年に開校した東横商業女学校は、1956年、短期大学設置の認可を受け、東横学園女子短期大学として新たな門出を迎えました。

▶1950~60年代

原子力研究所開設へ

1955年にジュネーブで開催された第1回国際原子力平和利用会議をきっかけに、先進諸国では原子力の平和利用に対する関心が高まりを見せていました。

本学でも、1959年、当時の八木秀次学長(1956年に文化勲章を受章)を委員長とする武蔵工大原子力グループを発足し、原子力の専門家を養成する新たな学科・専攻の新設を企画、併せて原子力研究所の設置に力を注ぐこととなりました。翌年4月、本学附属原子力研究所(川崎市麻生区王禅寺地区)が正式に発足し、1963年初頭には原子炉の据え付けが完了、当時管轄であった科学技術庁の最終審査にも合格して、同年3月、原子力研究所の完成披露会を行いました(2003年廃炉決定、廃止措置中)。

その後、2008年に工学部原子力安全工学科、2010年に早稲田大学と共同で大学院共同原子力専攻を開設した本学は、現在でも、原子力の「安全の担い手」として、日本、そして世界で活躍できる優秀な人材を養成しています。



原子力研究所の外観。



トリカII型原子炉の設置工事。



桜並木(現在の環八通り)の武蔵工大前バス停(昭和30年代)。



1966年、大学院最初の入学式。



1966年、東横学園女子短期大学の校舎。



1966年、武蔵工業大学の正門と本館(現在の世田谷キャンパス1号館付近)。



サンフランシスコのゴールデンゲートブリッジを走る武蔵2号。(1975年)



2009年、東京駅の前を走行する水素燃料エンジンバス。

▶1970年代

水素自動車の研究開発

1970年に、水以外の排出物を出さず環境に優しい先進技術で、石油系エネルギーの枯渇に対しても有効な代替方式と考えられた水素燃料エンジンの開発に成功しました。

1974年には、水素燃料エンジンを搭載した日本初の自動車「武蔵1号」が環状8号線を走行し、1975年には、液体水素燃料、吸気管噴射の「武蔵2号」が米国西海岸2,800kmを5日で走破するなど、90年代の「武蔵10号」に至るまで、水素燃料エンジン自動車の研究開発分野で輝かしい成果をあげています。2000年代からは、次世代の水素燃料エンジン自動車の実用化に向け、2009年に水素燃料エンジンバスを開発し、日本で初め

てナンバープレートの取得・公道走行を実現しています。2018年には、産業技術総合研究所、岡山大学、早稲田大学との共同研究により、大型発電用の高出力、高熱効率の新しい水素燃料エンジン燃焼技術を開発し、水素燃料自動車開発の先駆者として培ってきた知識と技術をさらに広範に生かそうとしています。

また、東横学園女子短期大学では、1979年に女性文化研究所を設置し、女性学一般に関する研究や公開講座の実施など、独自性の高い教育・研究活動を展開し、女性文化研究の拠点として一時代を築きました。

本学は歴史ある教育・研究活動を礎に、なお一層、実践力と専門性の高い人材の育成に力を注いでいきます。

▶次号No.212(7月発行)では、「進化する都市大の教育・研究(2)」を紹介予定です。

1960年代半ばから「大学と保護者との連絡会」を実施

地方出身学生の父母との連絡を密にしたいという思いで1964年にスタートした「父母との連絡会」(現在の「大学と保護者との連絡会」)。50年以上経った今でも、教職員が全国各地で、学生生活やカリキュラムの特徴、就職状況などを説明するとともに、保護者の方々からのさまざまな質問にお答えしています。



1965年に創刊した「武蔵工大だより」。現在の「TCU QUARTERLY」の原点であり、当時から保護者に向け、本学の現況を発信していました。

TCU Quarterly

—都市大だより—

2019.JUN.

No.212

2019年6月21日発行

東京都市大学 企画・広報室

東京都世田谷区玉堤1-28-1 TEL.03-5707-0104 <http://www.tcu.ac.jp>

特集

創立90周年記念 連載企画：都市大ヒストリー

第4回 時代の変化に合わせて改革し続ける大学

CONTENTS

- 02 特集1 創立90周年記念 連載企画：
第4回 都市大ヒストリー
- 04 特集2 国際学生寮 開設
- 06 入試結果
- 09 学部・学科改編
- 10 東京都市大学 留学プログラム
- 11 第1回 都市大研究プレゼンコンテスト
- 12 平成31年度 入学式
- 13 人事発令
- 16 永年勤続者表彰／博士学位(取得)
- 18 新任教員紹介
- 20 平成30年度 学位記授与／学位授与式式辞
- 23 卒業生数・修了者数／2018年度 受賞者一覧
- 25 平成31年度 入学式式辞
- 30 最終講義
- 32 研究紹介
- 33 PERSON／BOOKS
- 34 NEWSラウンジ／夢キャン通信
- 36 Information
(都市大エコ1チャレンジカップ2019／
2020年度入試情報／オープンキャンパス日程／
WEEKDAY CAMPUS VISIT日程)



第4回 進化する都市大の教育・研究《2》

時代の変化に合わせて 改革し続ける大学

創立90周年記念 連載企画の第4回は、本学の1980年代から2000年代の歴史を振り返ります。国際交流や教育・研究、就職支援など本学の歴史を象徴する出来事をご紹介します。

▶1980年代

国際交流の開花

本学の国際交流の歴史は古く、創立間もない1932年頃からアジア諸国の留学生を受け入れています。1983年、中曽根首相(当時)による「留学生受け入れ10万人計画」を機に、「国際交流はこれからの学生に必要不可欠」として国際社会で通用する学生を育成するため、1986年よりオレゴン工科大学(アメリカ)、北京建築工程学院(中国)等の海外の大学と協定を締結し、教育・研究や教員・学生の交流などを推進してきました。また、1997年には国際交流課を設置するなど、留学生へのサポートにも力を入れてきました。

現在では「東京都市大学オーストラリアプログラム(TAP)」や「カンタベリー大学留学プログラム(TUCP)」など独自の留学プログラムに加え、海外インターンシップを実施しているほか、海外の有力大学と「アジア・大洋州5大学連合(AOFUA)」を設立し、グローバルリーダー育成の取り組みを本格的にスタートするなど、本学の国際化は大きな進化を遂げています。また、1932年ごろは2名程度であった留学生も2019年5月現在では学部・大学院を合わせて129名、海外協定校は27校となりました。



1991年、オレゴン工科大学への夏期語学研修。

▶1990年代後半

環境情報学部を開設、 日本の大学として初の環境ISO14001を取得

本学を運営する学校法人五島育英会では、開学当初から、工学部だけの単科大学であった武蔵工業大学を、複数の学部を備える総合大学へ発展させることを目指していました。1990年代に入ると少子化社会の定着、4年制大学への進学率上昇、国際交流の発展など大学を取り巻く環境は大きく変化していきました。そのような時代背景の中で、社会から求められる人材を育成するため、文系・理系の枠を超えた新しい社会科学系の学部として、1997年、横浜市都筑区に環境情報学部^{*}(横浜キャンパス)を開設しました。

同学部は先端技術を駆使した環境にやさしいキャンパス作りなどが学内外で高く評価され、1998年、日本の大学として初めて国際環境規格ISO14001の認証を受けています。

2001年には、大学院環境情報学研究科修士課程環境情報学専攻を設置し、2005年には同博士後期課程を開設しています。

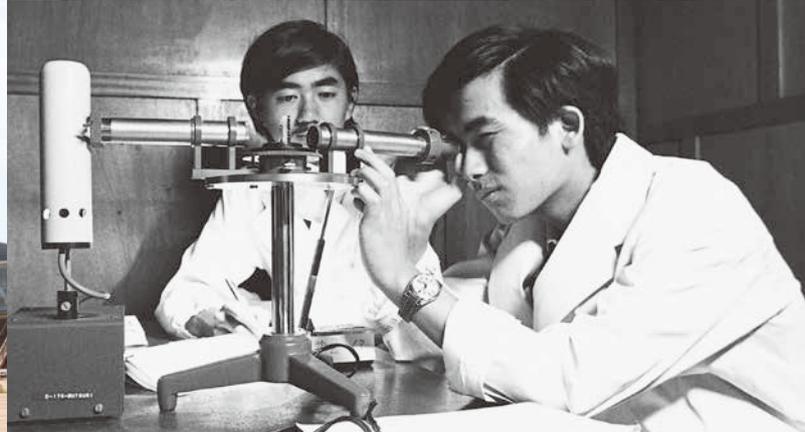
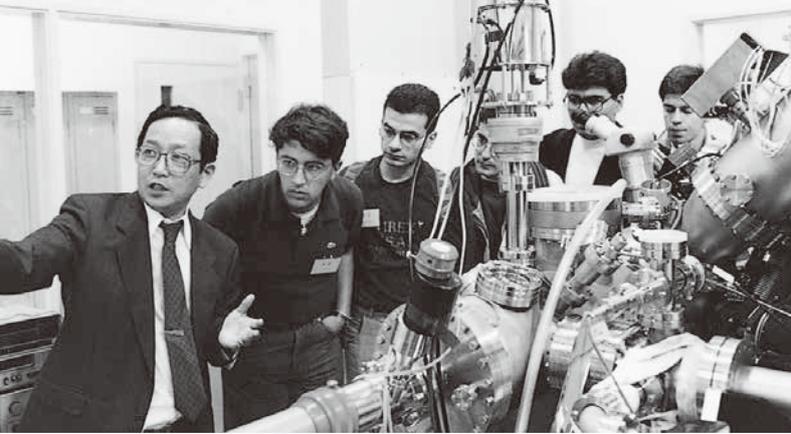
※環境情報学部：2013年に改組し、環境学部とメディア情報学部を設置。



1997年、横浜キャンパス竣工披露会。



環境にやさしく、自然との共生を実感できるビオトープ。(横浜キャンパス)



▶ 2000年代

総合研究所を開設、研究成果を社会へ還元

本学の理念である「持続可能な社会発展をもたらすための人材育成と学術研究」を実現すべく、2004年、等々力キャンパスに「総合研究所」を開所しました。

同所では、研究成果を社会へ還元することで国民生活の向上に寄与するとともに、学生の高度の教育を主目的とした研究活動のサポートを行っています。

開所当時は、シリコンナノ科学研究センター、エネルギー環境科学研究センター、共同研究支援の3組織でしたが、現在は5組織へと研究領域を拡大するとともに、2018年より世田谷キャンパスの6号館にも研究拠点を構えるなど、大きな進化を遂げています。

近年では、未来都市研究機構による、「都市研究の都市大」をテーマとした、都市が抱えるインフラや環境、ヘルスケア、生活などの問題を解決し、持続可能で魅力的な成熟都市を形成するための、全学的な学術的研究を進めています。

そして東京都市大学へ

時代の要請に応える教育と研究を推進するため、2009年に武蔵工業大学と東横学園女子短期大学は統合し、東京都市大学へと改称。これにより、大学の規模と学術領域が拡大し、学際的な教育・研究活動が可能となるとともに、課外活動もバラエティーが増え、学生同士の交流の輪が広がりました。本年創立90周年を迎える本学は、今後も時代の変化に合わせて改革を続けてまいります。

▶ 次号No.213(10月発行)は、最終回 学長インタビュー「創立100周年に向けて(仮)」を予定しています。

1	2
3	4

- ① 1991年、イタリアのピサ大学大学院生が本学半導体特別研究室を見学。
- ② 総合研究所(世田谷区・等々力)
- ③ 横浜キャンパス(横浜市・都筑区)
- ④ 研究風景

【Column】

就職支援「学内企業研究会」のルーツ

本学では毎年、約500社の企業の人事担当者や卒業生を招き、本学学生のためだけに行う「企業研究会」を開催しています。

このルーツは、1980年に開催された「武蔵工業大学をご覧いただく会」にあり、初回の6月には卒業生の就職先である企業の採用担当者(238社、259名)を招待しました。会場内の就職相談コーナーでは本学の就職担当教員の前に各企業担当者の長い列ができたそうです。

また、1989年の「週刊ダイヤモンド」(ダイヤモンド社)で紹介された企業の部・課長の出身校ランキング一覧では、全国の単科大学としては3位(私立では堂々トップ)に輝きました。2010年には、文部科学省のキャリア支援関連事業に採択されるなど、現在でも「就職に強い都市大」として社会で高く評価されています。



1980年、企業採用担当者を招待し「武蔵工業大学をご覧いただく会」を開催。

TCU Quarterly

—都市大だより—

2019.NOV.

No.213

2019年11月8日発行

東京都市大学 企画・広報室

東京都世田谷区玉堤1-28-1 TEL.03-5707-0104 <http://www.tcu.ac.jp>

特集

創立90周年記念 連載企画:都市大ヒストリー 三木千壽学長インタビュー

第5回 創立100周年、Best Value Universityを目指して

CONTENTS

- 02 特集1 創立90周年記念 連載企画:
第5回 都市大ヒストリー
- 04 特集2 アジア・大洋州5大学連合 (AOFUA)
サマーキャンプ開催
- 05 特集3 第3回 夢祭
- 06 学生と大学との懇談会
- 07 体育祭2019
- 08 第23回 東京都市大学横浜祭
- 09 人事発令
- 10 新任教員紹介
- 10 2019年度 五島育英基金奨学金授与式
- 11 2019年度 競争的研究資金一覧
- 12 令和元(2019)年度
文部科学省科学研究費助成事業交付決定一覧
- 16 2020年度 入学試験概要
- 20 経理公開
- 27 2019年度 学生団体
- 28 課外活動
- 32 第18回 科学体験教室
- 33 都市大エコ1チャレンジカップ 2019
- 34 NEWSラウンジ/夢キャン通信
- 36 台風19号による本学被災について



第5回(最終回) 三木千壽学長インタビュー

創立100周年、 Best Value University を目指して

創立90周年記念 連載企画の最終回は、
三木千壽学長に、進化し続ける都市大の現状と、
2029年の創立100周年に向けて、
これからの都市大が目指す姿などについて伺います。



東京都市大学 学長 **三木千壽**

1947年徳島県生まれ。東京工業大学工学部土木工学科卒業。同大学院理工学研究科土木工学専攻修士課程修了。
1979年工学博士(東京工業大学)。専門は構造工学、鋼構造学、橋梁工学。東京工業大学工学部教授、同工学部長、
副学長(教育・国際担当)などを経て、2015年1月1日、本学10代目学長に就任。

「アクションプラン2030」を策定し、
教育、研究などあらゆる分野で改革を推進中

—都市大は2019年に創立90周年の節目を迎えました。これまでの歴史を踏まえて、学長の考える「都市大の強み」についてお聞かせください。

三木千壽学長(以下学長) 本学の源流の一つである武蔵高等工科学校(後の武蔵工業大学)は、「もっと実験や実習で腕を磨きたい」と切に願った学生たちの熱意が創り上げた、希有な大学です。その熱い思いから生まれた「実践力」という本学の強みは、90年前から途切れることなく受け継がれています。「就職に強い都市大」というブランドも、優れた実践力が社会から高く評価されているからに他なりません。

—10年後の100周年(2029年)を視野に、中長期計画「アクションプラン2030」(以下、アクションプラン)に取り組んでいると聞いています。アクションプランとはどのようなものでしょうか?

学長 アクションプランは、私が学長に就任した2014年度からスタートした計画で、「『都市』をキーワードに時代の要請に取り組み、国際都市東京で存在感を示す有数の大学」を目標に掲げ、教育・研究、学生支援、キャンパス環境などあらゆる分野での改革を行うものです。具体的には、入学から卒業までの間に、学生たちの能力をいかに高めるかを尺度に「Best Value University(教育付加価値最大の大学)」を目指し、「世界で活躍できる、専門的実践力を有する人材」を育成します。

教育付加価値の向上と
研究活動を充実させるため多彩な施策を実施

—教育付加価値を高めるために、どのような施策を行っていますか?

学長 学生が卒業時まで真の実力を身につけられるよう、さまざまな改革を行っています。たとえば、1年間を4期に分けて、短期間で集中して学ぶ「クォーター制」や、履修できる単位数の上限を設定して自学自習の充実を図る「CAP制」などを導入しました。また、学修の習熟度を学生と教職員とが共有し、学年ごとに目標到達度を確認しながら、卒業時には4年間で身につけたスキル、知識を可視化する「ディプロマ・サプリメント」も用意しています。

—研究面では総合研究所 未来都市研究機構による「都市研究の都市大」が始まりました。都市大における「研究の強み」をお聞かせください。

学長 都市の抱えるさまざまな課題の解決を目指す「未来都市研究機構」を総合研究所内に設置し、学部学科の枠を超えた、全学的取り組みとしてインフラ、環境、情報、生活、健康といった領域で「未来都市」のあるべき姿を探求しています。研究の質は、教育の質と直結するため、研究活動の充実は、大学として最優先で取り



3月29日、世田谷キャンパスで行われた未来都市研究機構のシンポジウムの様子。



キャンパス再整備

世田谷キャンパスの既存校舎(10,13,15,16号館)を解体し、新たに仮称A棟・B棟の2棟を建設。A棟は等々力キャンパスの2学部(都市生活、人間科学)、B棟は理工学系の教育研究施設を中心とした建物となる予定です。

2023年の世田谷キャンパス完成図(予定)

組むべき課題です。例えば、本学は電気・建築・土木からスタートし、その後、エネルギー、通信、環境、情報など、さまざまな特色ある研究を展開してきました。こうした都市大ならではの研究活動に対しても、世界標準の研究評価システムを導入するなどして、研究のモチベーションが上がるよう工夫しています。結果として、文部科学省の科学研究費助成事業(科研費)の2019年度獲得額は前年比3割増、共同・受託研究費を合わせた外部資金の総額も2017、2018年度連続で10億円を超え、着実に研究力が向上していることがわかります。

学修環境を改善するキャンパスリニューアルや国際人の育成にも力を注ぐ

—キャンパス再整備事業についてお聞かせください。

学長 アクションプランの一環として、2019年度から23年度にかけて、世田谷キャンパスの約3分の1をリニューアルします。既存の校舎を解体して新棟2棟を順次建設、等々力キャンパスと総合研究所を世田谷キャンパスに移設する計画です(詳細は34P参照)。

—グローバル人材の育成についてはいかがでしょうか?

学長 1・2年次を対象とした東京都市大学オーストラリアプログラム(TAP)や、TOEIC600点以上の全学生を対象とするカンタベリー大学留学プログラム(TUCP)の他、アジア・大洋州5大学連合(AOFUA)も本格的に始動しています。今年7月には、本学世田谷キャンパスと八ヶ岳山荘で、4日間



TAPやTUCPなど本学独自の留学プログラムには年間700名が参加します。(2019年度予定数)

にわたりAOFUA初のサマーキャンプを開催しました(詳細は4P参照)。また、国際学生寮を世田谷キャンパス近くにオープンするなど、学内の国際化にも取り組んでいます。

このような本学のさまざまな取り組みは、文部科学省の平成30年度「私立大学等改革総合支援事業」の全5タイプに選定されています。同事業は、タイプ1「教育の質的転換」、タイプ2「産業界との連携」、タイプ3「他大学等との広域・分野連携」、タイプ4「グローバル化」、タイプ5「プラットフォーム形成」の5分類になりますが、これらすべてに選定されたのは、全国に603校ある私立大学の中で、本学が唯一となります。このことから、東京都市大学の取り組みが幅広い領域で高く評価されていることがお分かり頂けることと思います。

創立100周年、さらにその先の未来に向かって都市大は常に進化を続けていく

—学生や保護者の皆さんにメッセージをお願いします。

学長 アクションプランの策定から約5年、スピード感をもって改革に取り組んだ結果、10年後の創立100周年に向けて設定した目標の一部はすでに達成しております。現在は、より高い到達地点を目指し、変化する環境にも適応した具体的な施策を新たに検討しています。併せて、これからの10年は、創立100周年、さらにその先の100年のビジョンとプランを考える時だと考えています。

学生、保護者の皆様には、どうか本学を信頼し、私たちが用意するプログラムやカリキュラムに真剣に向き合ってほしいと思います。本学は“Best Value University”を目指し、本当に「都市大で学んで良かった。世界で活躍できる実践力と専門力が身についた」と、そう思っただけの大学を必ずや創り上げていきます。